

デンタル庁 設立企画書（案）

ポストコロナで「歯が立たない」と言わないために

株式会社 企

2021年4月1日

■ デンタル庁 設立趣旨 — 今、なぜデンタル庁なのか？

昨今の情報技術革新により、美味しいものの情報が社会にあふれている。

これらの情報を適切に取込むには、何よりもまず、自分の歯で美味しく食べることが重要である。

しかし、現状は、自分の歯の可視化が十分でなく、状況が適切に理解されていない。

夜中に歯の痛みを感じて、翌朝、慌てて歯科に電話相談／駆け込むなど、後手後手の対処療法に甘んじているケースが散見される。

また、コロナ禍でビデオ会議によるコミュニケーションの場面が増えているが、歯は発音を助け表情を作る^{※1}など、個人の歯の状況が、組織やコミュニティでのコミュニケーションに大きな影響を与える可能性がある^{※2}。

ただ、これらは決して新しい課題ではなく、マイナンバーカードの発行など解決に向けた基盤づくりに着手するも、自治体での取組が個別化するなど、非効率で効果が見込めるまでの進展が得られていない。

国民が、自らのデンタル環境やそれが影響する社会状況に関して、これ以上歯がゆい思いをすることがないように、抜本的な解決を目指すデンタルファーストを推進する。

※1：はじめよう口腔ケア（財団法人 8020推進財団）

※2：いわゆる、デンタルコミュニケーション問題

■ デンタル庁の基本理念 — 国民の皆様との約束

パーパス（存在意義）

効率的な咀嚼で、国民の生活を豊かにする

ミッション

誰一人虫歯にしないデンタル社会の実現

行動規範

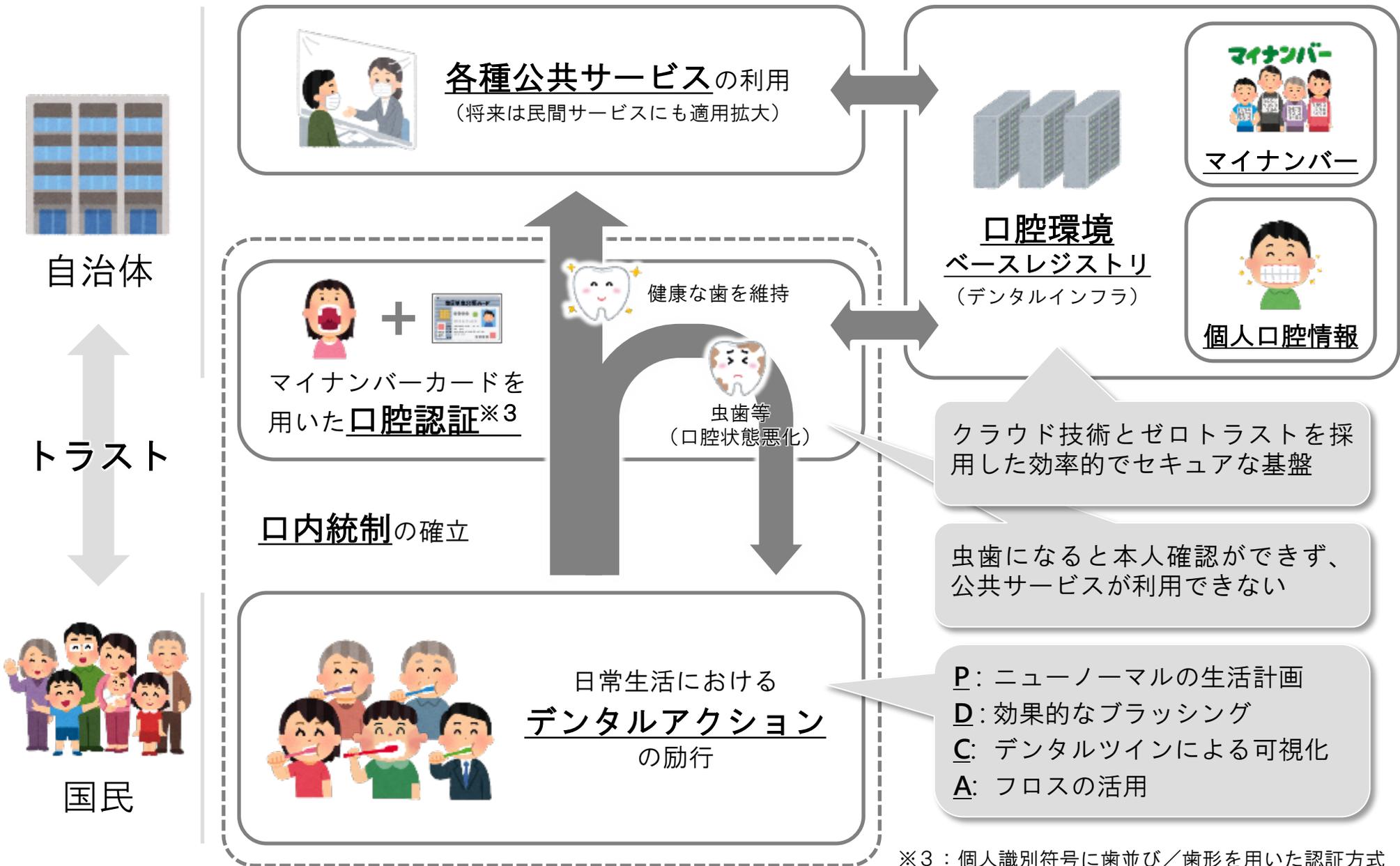
- 奥歯に物が挟まったような言い方をしない
- 一方で、表面的な歯が浮くようなことも言わない
- 目には目を、歯には歯を



■ デンタル庁の役割 — デンタル環境向上に向けたイノベーション



■ デンタル・ガバナンス・アーキテクチャ



※3：個人識別符号に歯並び／歯形を用いた認証方式

■ デンタル庁の主な施策 — 官民一体となった施策の推進

国民の主な歯がゆい課題

- 1 ■ そもそも、自分の歯の状況がよく分からない
- 2 ■ 生活に影響が出ないと、歯の重要性を意識できない
- 3 ■ 歯ブラシの電動化等のデンタル技術や各種のデンタル情報が氾濫し、うまく咀嚼できない
- 4 ■ マイナンバーなど、以前から多くの予算が投入されているにも関わらず、口腔領域の効率化（デンタル化）が進まない

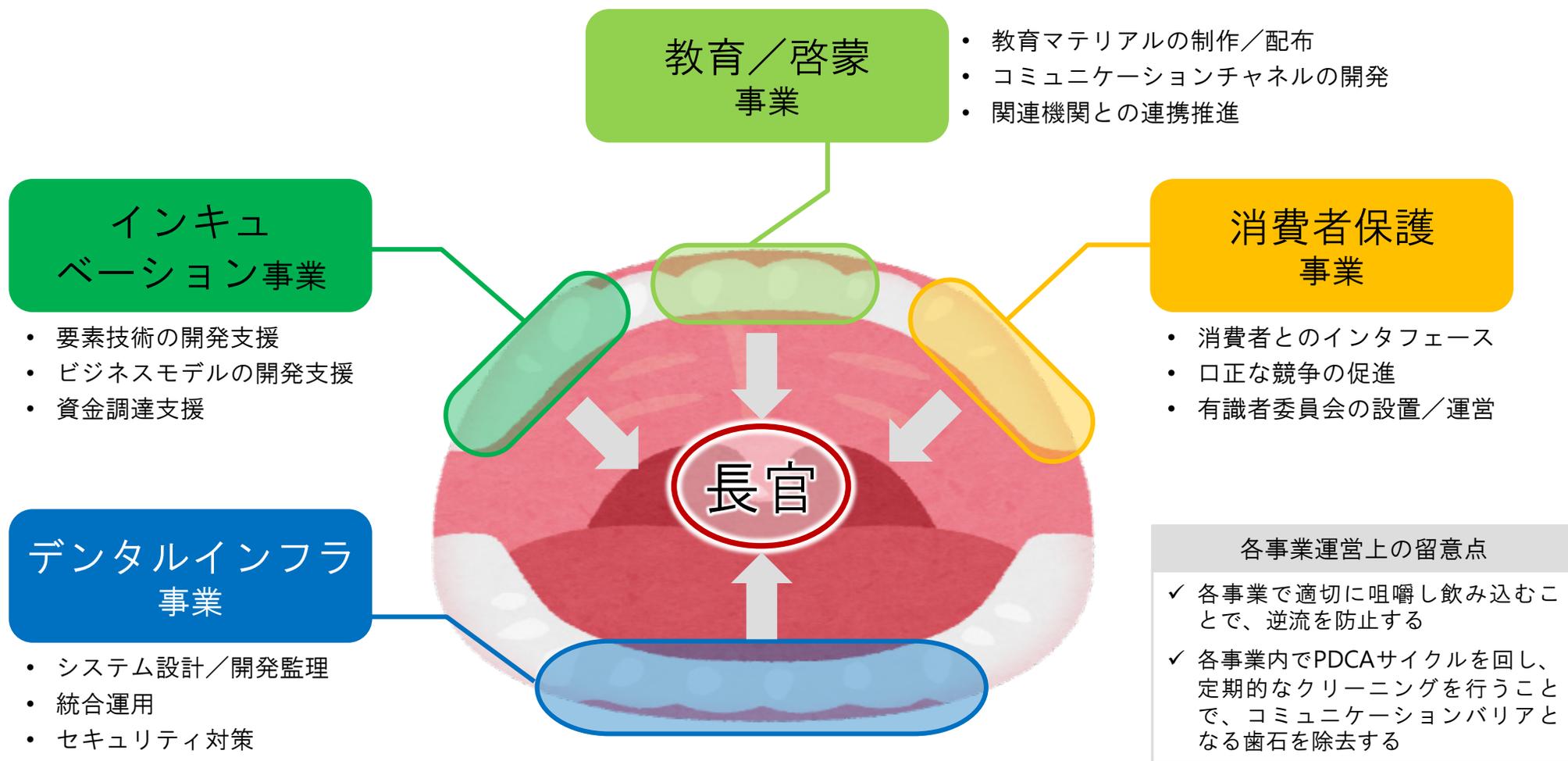
歯を食いしばってやりきる施策

インキュベーション	✓ ベンチャーによる口腔内状況可視化のための <u>デンタルツイン技術</u> の開発
教育／啓発	✓ 国民への歯の役割と口腔ケアに係わる <u>諸問題の啓発と対策の共有</u>
消費者保護	✓ 消費者目線での技術／製品／サービスの <u>適性な普及／販売の実現</u>
デンタルインフラ構築／運用	✓ クラウド技術を活用した自治体共通の <u>デンタルインフラの構築</u> と統合運用

■ デンタル庁の組織 — 縦割りの排除

あるべき組織像

フラットで、長官を通じて全てを飲み込める組織



■ 【参考資料】 デンタル庁設立に関する国民の声（抜粋）

- 虫歯になったことがあるにも関わらず、同じ「磨き方」をしていたら、必ずまた、虫歯になる。磨き方改革を進めるべきだ。（会社員 42歳）
- デンタル事業に従事できる有能な人材が限定的なため、サプライサイドの人材強化施策も実施して欲しい。（会社役員 53歳）
- 施策の対象となる国民に「子ども」は含まれているのか？例えば、ゼロ歳児に対して何をしてくれるのか理解できなかった。（主婦 32歳）
- 大人は子どもに「食べた後、すぐに歯を磨きなさい」というのに、どうして彼らのデンタル環境に問題が発生するのか理解できない。（学生 8歳）
- 最近、社会で「デジタル化が重要」と叫ばれているが、総入れ歯で生活している者として「デンタル」の方が遙かに重要と感じる。（無職 84歳）

出典：令和2年度「デンタル庁設立に向けたヒアリング調査結果」

